

神奈川県教育長賞

「元気になるごはん」

伊勢原市立高部屋小学校  
3年 中村 博紀

げんかんに、ドスンという重い音のダンボールがとどいた。山形のおじいちゃんからだ！

箱を開けると、ほう石みたいにとり明で、キラキラしたお米がたく山入っている。りよう手ですくうとなめらかで、いなほのかおりと、山形の空気がまぎってとてもいいにおいがする。目をつぶると、山形の広い田んぼの風けいを思い出した。遠くの山までつづく田んぼで、農家の人たちは一生けん命お米作りをしているのだ。

「おなかいっぱい食べるぞ。」

ワクワクが止まらない。たき上がるまでの時間、おじいちゃんにお礼の電話をかけた。

「ひろ、元気か？ごはんとく山食べて、大きくなるんだぞ。」

元気な声でホッと安心。おじいちゃんは、去年体調が悪くて、二か月入院していた。お見まいに行ったら、体重が十キロへって、体が細くなっていた。

「山もり食べるよ。おじいちゃんも、ごはん食べてえいようつけてね。」

お返しはいつも玉子。玉子かけごはんで、五キロふえたと聞いて、うれしかった。

すいはんきのメロデイがなった。ピカピカツヤツヤのごはん。あついで、お茶わんにごはんを入れて、たてや横にふるとおにぎりの形になる。ごましおをふつたらかんせい。

「おいしいね。さいこうだね。」

七人家族で一番年下のぼくが、4こ食べてトップ。みんなで大わらい。お母さんが、

「お米はね、太ようと、おいしい水とすんだ空気、えいようのある土からできるんだよ。」

と教えてくれた。お姉ちゃんがこの前、

「ダイエットするから、ごはんへらそう。」

と言ったので、ぼくは、

「ごはんはしっかり食べて、運動するんだよ。」と、お母さん口調で教えてあげた。

ごはんパワーで、お父さんより大きくなるぞ。